

《一》次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（字数制限のある問題は、句読点も一字に數えます。）

生物の時間はエネルギー消費量で変わるので、生物はエネルギー消費量をみずから変えることにより、積極的に時間を操作しているのだと私は考えています。

ヤマネ（山鼠）は冬眠します。同じサイズの冬眠しないものと比べると、ヤマネはずっと長生きですが、冬眠中にはエネルギーをわずかしか使わないので時間がゆっくりになり、その分、寿命も延びるのでしょう。

①だから長生きしたけりやすと冬眠してればいい、とはならないでしょう。冬眠するのは、時間を止めて、冬という暮らしにいい季節を、やり過ごすためです。長生きしたいからではありません。

植物だってそうです。種は、何年でもとつておけますね。種はほとんどエネルギーを使っていません。植物は種という形で時間を止めているのです。そして良い環境になつたら、芽吹いて生長し、花を咲かせます。六〇年ほど前になりますが、大賀一郎先生が、二〇〇〇年以前の遺跡からハスの種を掘り出して、それを出芽させるのに成功しました。今、いろいろなところで、このハスの子孫が花を咲かせています。種は二〇〇〇年もの間、時間を止めていたのです。

ですから、長生きしたかつたら種のままでいいわけですが、それでは生物として、生きた意味がないでしよう。「一粒の麦もし地に落ちて死なずば、ただ一つにてあらん、死なば多くの実を結ぶべし」。これは聖書の言葉ですが、一粒の麦は死ななかつたら、それだけでおしまいです。自分の蓄えたエネルギーを注ぎ込んで生長して花を咲かせて、次世代をたくさん作る。わが身をすりへらして子孫をつくっていくところに、生物として意味のある時間が流れます。

だからといって、種の時間が、まったくの無意味というわけではありません。植物は、待つ時間、生長する時間、花開く時間と、さまざまな質の違う時間を、一生の中で作り出しています。結局、②時間を操作して生きているのだと思います。

昆虫は、卵、幼虫、蛹、成虫と、変態しながら大きくなります。たとえば卵で越冬する。幼虫の時代はあまり動きまわらずに、ひたすら食つて大きくなる。蛹ではじつと動かず体を作りかえ、親になつたら羽をはやし、エネルギーをどんどん使って異性を求めて飛びまわり、子供を作る。それぞれの時期でエネルギー消費量が大きく違いますから、時期ごとに違う時間が流れているでしよう。

生物においては、エネルギーを使うと時間が流れます。使わなければ止まる。だから一歩踏み込んだ言い方をすれば、「生物はエネルギーを使って時間を生み出している」のではないか。エネルギーをたくさん注ぎ込めば速い時間をつくり出せる、エネルギーを少なくすればゆるやかな時間が生まれる。

イメージとしてはこうです。生物はおのれの、時間のベルトコンベアを、エネルギーを使って自分で回している。ネズミはエネルギーをたくさん使って③ベルトを速く回す、ゾウはゆっくりと回す。冬眠中はほとんど回さない。生命の時間とは、かように※アクティブなものだと思うのですね。

これに対して物理学の時間は、万物が同じベルトコンベアに載せられて運ばれて行くイメージです。われわれは時間に對して何もできません。いわば時間の奴隸。唯一できるのは、時間の④ベルトにどれだけ乗つていられるかだけ。だからこそ、今の私たちのように、どんな状況であれ、できるだけ長く乗つている方がいいという感覚が、じつに重たく私たちにのしかかっているような気がするのです。

この万物共通の時間にただただ流されていくしかないという感覚が、じつに重たく私たちにのしかかっているような気がするのです。⑤生きる上での重荷です。私は、時間も操作できるんだ、そして必ずしも長生きだけがいいわけじゃないんだと気づいた時、なんか⑥の荷が軽くなつた気がしました。

※ アクティブ——積極的で活動的なさま。

（本川達雄『生物学的文明論』より）

問一 傍線部①「だから長生きしたけりやずっと冬眠してればいい、とはならない」と言えるのはどうしてか。説明しなさい。

あてはまる表現を考えて答えなさい。

生物は、エネルギーを ことで、時間を 、
また、エネルギーを ことで、時間を 、
また、エネルギーを ことで、時間を 。

問三 傍線部③と傍線部④の「ベルト」は、どう異なるか。百二十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部⑤「生きる上での重荷」があるが、この重荷を背負って生きるとは、私たちがどういう状態で生きるということか。八十字以内で説明しなさい。

問五 空欄⑥には体の一部分を表す語が入る。その語を答えなさい。(ひらがなでも構わない。) (四十五点)

《二》次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に數えます。)

日本の女性で、制服として洋装をしたのは、看護婦がはじめてだといわれている。日本赤十字の従軍看護婦がリリしい制服を着たところは、あるいは武士が袴をはいて①しゃつちよこぱつたときの氣分に②いたのかと思う。

私は小学校へあがるまえにジフテリヤで一回、肺炎で一回死にそこなっている。一年生のとき赤痢で長く病院にはいっていたことは、すでにいつた。それ以後、幾度も病院にはいつたり出たり、今までよくも生きてこられたと、自分も思い弟妹や親類縁者も思つてゐる。それだけ看護婦さんの厄介になつたことは、ひととおりでない。そのことが、変に看護婦さんの白衣に关心をもつようになつた原因であろう。糊のきいた^{のり}わざわした白衣で、さつそつと歩いている看護婦さんを見ると、みんなきれいにみえてしまうのである。

きものが制度としての意味をもつてゐるのを私にはつきり教えてくれたのも看護婦の白衣であつたろう。

われわれは生まれると産衣を着せられる。そして、一定のとしに達すると昔は元服とよばれて成年者となつた証拠をきもので見せたのである。七・五・三などという子供のための④イワイもあつて、⑤親たちはきものために頭をつかわされる。結婚や葬式のきものはもちろん特別なものである。

また職業によつてもきものは区別されている。坊主は袈裟^{けさ}ころも、職人ははつびもひき、そして看護婦は白衣といふが、そして看護婦は白衣であつたろう。

われわれは生まれると産衣を着せられる。そして、一定のとしに達すると昔は元服とよばれて成年者となつた証拠をきもので見せたのである。これらは人間が社会生活をいとなむときに、したがわなければならない一種の約束^{うやま}ことである。坊主が、はつびともひきで葬式へやつてきて、腹がけのどんぶりから数珠を出したのでは⑥会葬者^{じゆしゃ}がおさまらないであろう。

われわれは日本という一つの社会の中に生まれたので、生まれたとき以来、その制度的な人間関係の中にいやおうなしにはいりこまねばならぬようにさせられてきた。それは、ゆるやかな強制だから、通念を破つた我儘^{わがまま}かつてなきものを着ても、所罰はされない。しかし、あまり変わつた風態をすれば、狂人^{きょう}と思われるだけである。「裸^{はだか}で道中なるものか」とは古くからのいいつたえである。裸で道路上を歩いていたら、たぶん百メートルと歩かぬうちに警官につかまつてしまふだろう。法律の条文は知らないが、風俗壞乱でも、軽①ハンザイでもたぶん取締^{とりしま}られるだろう。それよりも狂人として、保護されてしまふにきまつて、それは文字どおり裸で道中がならない意味だが、同時に社会人として生きしていくには、かならずなんらかのきものを着なければならぬことをも意味している。それにとどまらず「④」といわれる。なか身がおそまつでもきものが上等だとなんとなく人柄^{がら}まで上等にみられてくる。きものがかえつてなか身である人間の値うちまできめかねないのである。

パリから日本へ帰つてくるときになつて、しゃれた服を急に買いこみ、それを着て帰国した友人の重苦しい気分は、私にもよくわかる。ひとはみなりのよしあしで、待遇^{ぐう}をかえやすいから、日本では必要以上にきものに気をつかわなければならない。その必要のなかつたフランスを彼がなつかしがるのも無理はない。

日本で特にきものを気にするのは、ひとの目を気にする恥じの文化が、いまだに支配的だからであろう。ひとのやるよう、自分もまねして、同じようなものを同じように着ていれば大きなあやまちないと、ことなれ主義のひとたちは考えている。封建時代に士・農・工・商の身分が固定され、その制度をきもので規制した伝統がいまだに人ひとの心中に残っているのであろうか。

明治維新の変革が経済的に資本主義への道をひらいたにかかわらず、その資本主義がフランス革命などとちがつて政治的には天皇制と抱きあつてしまつたため階層と身分も職業とからみあつて、複雑な①ヨウゾウを見せることになつた。職業に貴賤の別はなく、四民は平等だと、口でいうひとは多いが、*公卿を別格として士・農・工・商と貴賤の別を確保してきた武士の統制が、かんたんに変化するものではなかつた。

きものは古代の*位階制を服飾であらわす手段であつたとき以来つねに、社会の上下関係をあらわすシンボルであつた。王朝から鎌倉時代へかわつたとき、中世への転化につれて武士風俗へと支配的なものが変わつた。徳川時代になって商業がさかんになり、城下町が繁栄するにしたがい消費経済の拡大が職業の分化をうながした。そしてそれぞれの職業に必要なきものがシンボルとして階層制のにくみこまれてきた。明治になつて、また一つの大きな変革が、きものの制度的④ソクメンをゆきあつた。洋風をとり入れることによつて、ちがつたシステムが生まれたのである。しかし、明治天皇が洋服を着ることによつて*範を示したといふこと自体が、*唐制をとりいれたときの古代の文化輸入のパターンそのままであつた。だから⑤基本的な点では、なかなか変革できなかつたのである。

(戸井田道三『きものの思想』より)

* 看護婦 —— 女性看護師のかつての呼び名。

腹がけ —— 胸から腹をおおう職人の作業着。

前に「どんぶり」という物入れがついている。

所罰 —— 「処罰」と同じ。

風俗壞乱 —— 社会のよい風俗や習慣を破壊し混乱させること。

公卿 —— 貵族のこと。

位階 —— 官職において個人の地位を表す等級のこと。

範を示した —— 手本を示した。

唐制 —— 中国の昔の王朝である唐の制度。

問一 傍線部①「しゃつちよこばつた」の意味として、次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ さつそうとして軽快な態度

ロ いかめしく改まつた態度

ハ ひかえめで人目をさける態度

ニ わざとらしく出しやばつた態度

ホ いつも通り落ち着いた態度

問二 傍線部②「親たちはきもののために頭をつかわされる」とあるが、それはなぜか。次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ 日本では特別な節目の度に新しい服装が必要で、そこにかかる費用のために頭が一杯になるから。

ロ 日本では子どもの将来が、小さい時のきものよしあしによつて完全に決まつてしまふから。

ハ 日本では職業によつてきものは区別されていて、親の職により決まつた服の準備が必要だから。

ニ 日本ではきものが制度としての意味をもつていて、その強制をはみだすと取り締まられるから。

ホ 日本では恥じの文化がいまだに支配的で、ひとはみなりのよしあしで待遇をかえやすいから。

問三 傍線部③「会葬者がおさまらないであろう」とあるが、それはなぜか。八十字以内で説明しなさい。

問四 空欄④を補うことわざ・成語として、次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ ぼろをまとえど心は錦

ロ 坊主憎けりや袈裟まで憎い

ハ 袖ふれあうも多生の縁

ニ 馬子にも衣装

ホ 無い袖は振れない

問五 傍線部⑤「基本的な点」とは何のことか。三十字以内で答えなさい。

問六 傍線部④のカタカナを漢字に改めなさい。

《二》次のI・IIの問いに答えなさい。

I 次の①～⑩の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 各国**の**物価**の**シヒョウ。
- ② 組織**に**必ず**ジ**ョレツ**が**ある。
- ③ 敵**の**シユリョウ**が**姿**を**現**した**。
- ④ 全權**を**イニン**する**。
- ⑤ 税制改革**は**国家**の**一大アンケン**である**。
- ⑥ 彼**ら**は**ヒ**キ**こ**も**ご**もの**思**い**であつた**。
- ⑦ 火**に**かけた**フ**ライパン**の**水**滴**^{てき}**が**シヨウハツ**して**いく。
- ⑧ ノウガク**は**日本**の**伝**統**的な**演**芸**である**。
- ⑨ ボウエキ**を**自由化**する**。
- ⑩ かわいい子犬**を**ヒロ**つた**。

II 次の⑪～⑯の傍線部のカタカナを漢字に改め、四字熟語を完成させなさい。

- ⑪ フンコツ**碎**身
- ⑫ コウガ**ン**無**恥**
- ⑬ シンショウ**必**罰
- ⑭ 一騎**き**トウセン
- ⑮ ブカ**価**値

